



奮闘！熊手作り・・・会心の笑顔が見れました



柳窪地区には、ケヤキをはじめとする屋敷林の巨木や、雑木林の一部として多くの竹林があります。その多くは手入れが行き届かず、繁りすぎて、度々刈り込んできました。（柳窪の環境・景観の保全を考える会とNPO法人 東久留米の水と景観を守る会）

今年は、更に大雪で多くの竹がその重さで折れてしまいました。これまでのように柳泉園での焼却もどうかと思い、一つの試みとして「熊手作り」をすることにしました。

7月21日場所は、柳窪天神社事務所で、両会メンバーに加え6月の環境フェスティバルでの呼びかけに応じてくれた人たち15名が参加されました。

講師は、竹細工のプロ 渡部さん、ザルやシャベルや遊び道具等の制作をされています。

講師は、竹細工のプロ 渡部さん、ザルやシャベルや遊び道具等の制作をされています。



先生の説明のもと、奮闘すること1時間余り・・・

(写真上でクリックすれば、拡大表示されます)

この笑顔で、今日の充実感がわかりますね。



無事終了！「マイ熊手」の出来上がりです。



両会では、将来は竹かごや、遊び道具なども作って楽しみながらの「竹細工教室」を始めたいそうです。



締めくくりとして、渡部さんのお話をお伝えします。

熊手などの道具は農家の人たちが自分で作っていた、またすこし上手な人は、農閑期にたくさん作り、人に分けたりしていたのです。

ところが、次第に作る人と使う人が分業化して、プラスチックの利用により竹の需要もなくなり、竹は放置され、作る技術も廃れてきました。

「作ってそして使ってください！」

「自分の作ったものは自分で修理できるのです」

「よりよい熊手作りのために、どこが不具合だったのかヤリトリしましょう！」

「今回は、利用されず、ただ伐られて捨てられるだけの竹から、熊手をつくってみました。使ってみて、改良してまた作ってみてください。また竹を使ってもっと多くの道具や遊びに発展することを、願っています」

なお、今回つくった熊手を持ち寄り、柳窪地区で**落ち葉はき**作業を行うとのことです。

11月半ばから12月半ばまでの1か月半で一日おき、一回1.5時間程度

延べ160人もの手が必要となります。

初冬の柳窪の自然を楽しみながら、参加してみませんか？

一人でも多くのボランティアの方々の、ご参加に期待しています。

問い合わせ先は、下記の通りです。

連絡先：佐藤雄二さん 042-472-6648

追加）今回取材した、柳窪地区の一部をご紹介します。

主屋と土蔵からなる屋敷が柳窪に点在しています。

武蔵野の風景を彷彿させる柳窪を、黒目川の清流沿いに整備された散策道ウオークで、楽しんでみてはいかがでしょうか？

「**緑の島**」に入れば、真夏でもヒンヤリしますよ。



市民レポーター：球歩（関係者の了解を得て写真掲載しています）